

布教教化に関する告諭

今、世界が抱える諸問題は、複合的かつ重層的で、基本的な人権としての平和な暮らしや命の尊厳が脅かされる危機的な状況は、広がる一方と言っても過言ではありません。

一仏兩祖を信奉する私たちは、確かな道を知っていなければならないのです。

お釈迦さまは縁起の理法をさとられ、一切を正しく観察される智慧と、他者との和合調和は慈悲によって成ることを、身を以てお示しくいただきました。それは、我利・我欲を離れる私たちの生き方だったのです。

道元禅師は「回光返照の退歩を学すべし」とお示しです。

歩みを止め、息を調え、二歩も三歩も退いて、自らが行いを仏道に照らし謙虚に顧みよ、と説いておられます。

瑩山禅師は「必ず和合和睦の思いを生ずべし」と示されました。

和合調和を乱すのは、何時の世も人間の我利・我欲、すなわち貪りであり、その貪りこそが苦悩の源であり、対立闘争の根源なのです。

無常無我の世なればこそ、日月は私無く一切を照らしてあります。私たちも、至心に万事万縁と関わってゆきたいものです。

合掌は、御仏に自らを重ね合わせることで、御仏をこの身に頂く坐禅に親しみ、世界中の人びとが誰一人取り残されることなく、安らかに暮らせるよう、祈り、念じ、共にも菩薩行を進めてまいりましょう。菩薩の誓願に生きることが、苦悩の世を安楽の世にする真の道であります。

大本山總持寺開山太祖瑩山紹瑾禅師七〇〇回大遠忌法要をご縁として、和合のみ心を我が心、和合のみ教えを我が行いとして、太祖さまに見えようではありませんか。

合掌

南無釈迦牟尼仏

南無高祖承陽大師道元禅師

南無太祖常濟大師瑩山禅師



令和六（二〇二四）年四月一日

曹洞宗管長 南澤道人

曹洞宗は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

